

同窓会会報

青雲

青雲高等学校
同窓会

Contents

同窓会会報発行にあたって

02

青雲の今

05

同窓会員の今

08

青雲の「伝統」とは何か

10

会員名簿の発行について

10

校長先生の胴上げ

11

支部だより

12

お知らせ

14

同窓会総会・懇親会について

15

「しまをだいに」
ゆたかな知性をつちかえ
ひろい心をはぐくめ
たくましい体をつくれ



同窓会会報
発行にあたって



青雲高等学校同窓会
会長 安達 健蔵

〳〵学園の今〳〵と
〳〵会員の今〳〵をお伝えし
〳〵コミュニケーション作り
のお役に立てればと
思います

同窓会の目的

初秋の候、皆様方におかれましては、ますます御健勝のこととお慶び申し上げます。昨年夏の同窓会総会で第4代会長の指名をいただき、はや1年が経ちました。同窓会の目的は、卒業生が〳〵好意と友情を深める〳〵ことが第一義です。

同窓会は「同窓の諸氏」が、若き日〳〵学び舎〳〵での学園生活の思い出を基に、大学・社会人となり

新たな〳〵出会い〳〵をもつ組織です。在学当時の事だけでなく、その後それぞれが歩んだ〳〵新たな経験・キャリア〳〵を積んだ同窓生が集い、互いの健闘を讃え、時には悩み、心支えあうことが出来る組織です。また旧友と再会でき、互いに尽きるまでの友人が持てる場だと思えます。

そのために、いつでも、自分たちのペースで気軽に集まり、気兼ねなく話せ、また今度楽しく会えるようにしたいと思います。

時には仕事の都合で無理な場合もあるでしょう。それでも少しでも出来ることを出来る範囲で互いに行っていくればと思います。同窓会になかなか出席できない方が、気持ち良く気軽に立ち寄れる〳〵プラットフォーム〳〵を作ればと思います。

私自身が同窓会活動に携わるにあたり、一番気をつけていることがあります。

それは、「同窓会を自己実現の場にしない」ということです。

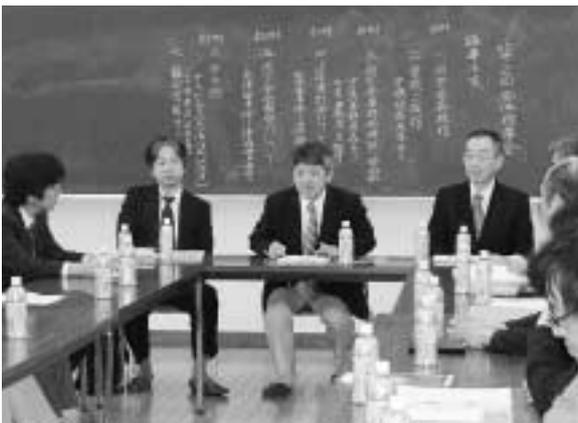
先輩から使われるのではないが、利用されるのではないか等の危惧が会員皆様にあるのではないのでしょうか？

自己実現は職場を通じて仕事で、

あるいは地域において目指すものだと思います。同窓会は親睦の場であり、好意と友情を深める〳〵ところ〳〵です。気持ち良く話し、笑い、良き仲間として長続きするような人との係わり合いを心がけています。これは、前会長永江圭爾さんより教わった事でもあり、会長就任にあたり私自身が心に灯していることです。

今後各方面で、活躍される会員が増えてくると思います。

それぞれに社会常識が少しずつ違い、「これくらいは・・・」という判断の時にはぜひ思い出ししてください。





同窓会組織運営

さて、ここから同窓会組織運営について概略お話しします。

今年度は同窓会本部の理事會業務を5つの委員会で分担していた。だき総務・会計委員会、支部・會員増強委員会、總會委員会、名簿委員会、会報委員会と分けています。

それぞれの委員会毎に、會議を開催していただき、活発な活動を行っています。総務・会計委員会は大切な會費の管理を行い、支部・會員増強委員会は新たな支部開設の模索と承認を。總會委員会は、2年毎に行われる總會実施の企画運営を行い、名簿委員会は5年に1度の名簿発行の主幹として情報の管理、会報委員会は各委員会や学校・會員の方々と連携して活動を行っています。

重要事案については全体理事會を招集し各委員会で提出あつた内容を最終協議し決定して運営しています。

同窓会支部

同窓会の支部は現在4つの組織があり関東青雲会・佐世保支部・長崎医学同窓会・久留米大学医学同窓会が活動しています。

同窓会活動の根幹は地域における同窓生の結集が一番と思います。皆様の中で該当地にお住まいの方で、各支部に連絡をとつてない方がいらつしゃれば、ぜひ一度、毎年開催されている懇親会から出席してみてください。

また、お近くに支部組織が無い方は、ぜひ同窓生数人で支部を立ち上げていただければ幸いです。ご連絡いただければ、同窓会本部として支部・會員増強委員会でサポートいたします。以上が組織概略です。

同窓会会報発行

今回、會員の方々に活動状況を知ってもらつたために同窓会会報を発行いたしました。発行趣意書については別紙に記載しておる通りです。

学校より寄稿いただき、学園の

今〃をお伝えし、さらに同窓会支部活動状況や、地域の會員の様子を掲載し、卒業回生毎に記事を寄稿いただき、會員の今〃をお伝えしました。内容的には今後更に充実し、會員皆様の近況を掲載し、會員同士のコミュニケーション作りにお役に立てばと思います。

今後、同窓会活動の活性化には會員の皆様方の力が必要です。地域で、職場で後輩を見つけたら、是非声をかけていただき、良き先輩として接していただきたいと思ひます。後輩からは、声が出にくいものです。〃好意と友情〃のために一声をお願いします。

この春より、学校のご厚意で、学園事務局に同窓会担当の事務局員を配置していただきました。学校事務業務を担われながら、〃同窓生の窓口〃として同窓会事務や會員の連絡等に対応していただきますので、皆様よろしくお願ひします。

最後に、同窓会として永年の懸案でした、同窓会会報の発行でお世話になりました会報委員会の皆様をはじめ、ご協力いただきました方々に感謝いたします。

皆様方に、今後の同窓会活動をよろしくお願ひいたします。



「朋あり」

理事長 小田 信彦

青雲高等学校同窓会会報の創刊に際し、「ご努力頂いた関係各位へ敬意を表しますと共に、心よりお祝い申し上げます。」

縁あつて学園に奉職して早や三年。その間、多くの卒業生にお会いしました。一昨年の関東青雲会。昨夏の同窓会総会等々。活力と魅力に溢れる皆さんとの出会いは、流石、青雲との思いと、この様な先輩・後輩の絆、友情に一種のジェラシーを覚えました。これは、一体何に起因するのだろうか、

一会の度に考えさせられました。昭和四十九年十二月、青雲学園設立趣意書の中に、こう述べられています。「現代ならびに未来社会は、複雑で困難な種々の問題をかかえています。人びとは心が飢え渴き、生きがいを求めております。それだけに、人間が真の人間として育成される為の全人教育が今日ほど重要な時はありません。私共は、師弟同行による、ふれあいを通じた真の教育を行い、独自の校風を持つ学校の設立を決意しました。本学園は、自らの人生を積極的に開拓しようとする、青雲の志を抱く少年を集め、一人ひとりの能力を最高度に開発して、現代人にふさわしい人間教育を行うこ

とをめざします。」とある。(抜粋)三十五年を経て、全く色褪せない趣意。

開学以来、その趣旨の実現に最大限の努力が、実践され続けてきたことが先の疑問への解答ではないかと気付かされました。勿論、寮生活等も貢献しているのでしょう。揺るぎない志とその堅持の大切さを実感させられます。「朋、遠方より来たるあり。亦樂しからずや。」

同窓会における再会、卒業年度を超えた一期一会にもあると思います。今、執務室から見聞きする在校生達の笑顔や歓声。彼等も遠方から集い学んでいます。彼等の青春にとつて、学園が楽しく有意義な場であり続けるために、何を為すべきか責務を感じております。

高田好胤師の著書の一節にも、「それぞれの時代にそれぞれの青春がある。夢を馳せ、懊悩し、決意する。それは、珠玉のように貴重な時間である。」とあります。

教職員一同、全力を尽くして参ります。学園内の設備につきましては増改修を行い、ハード面の改善も進んでおります。お約束の卒業生の学園内憩いの場も課題です。最後になりましたが同窓会のご発展心より祈念申し上げます。



「夢」への挑戦

校長 中嶋 将晴

青雲高等学校同窓会会報創刊号が発行されること心よりお喜びを申し上げます。

草創期に植栽された青雲坂の桜の木は、今では天井を覆う桜のトンネルとなり、春には、花吹雪の中を新入生が希望を胸に登校してきます。

昭和50年に本学園が開校して以来35年、歴代の理事長先生、校長先生を始め諸先生方のご尽力により営々として築かれた伝統は、学園の校風として受け継がれています。

初代理事長速見雄吉先生が述べられた建学の精神「教師と生徒との師弟同行による真の教育、知・徳・体の調和のとれた全人教育」と、校訓「いまをだいに」は、校史を貫く学園の教育の原点として脈々と息づいています。

卒業生も、平成21年3月の第32回卒業生を含め、総数が7,432名に達しました。

開校以来、師弟の強い絆の下、硬派な校風の中で、互いの友情を確かにし、歴史を創造する開拓者精神を身に纏った若者たちは、今や世を担う有意な人材として広く国内外で活躍されています。

学園では毎年、法曹界、官公庁キヤ

リア、大学教授、エンジニア、ビジネスマン等、第一線で活躍する先輩たちを招聘しています。先輩たちの今昔の熱い思いに、在校生の夢がまた一段と大きくなっています。

また、社会の要請もあり、平成7年度には高校の男女共学化、平成21年度からは中学の男女共学化が始まりました。

私学経営は、いつの時代にあつても教職員と保護者、それにOBの三本柱が支えていくことでよりよくなされていくのだと思います。かつて、修学旅行で中国を訪れたとき、生徒の交流会の席上、生徒代表が述べた言葉、「今日は学校が私の誇りです。将来は私が学校の誇りです」が、今でも鮮明に記憶に残っています。

青雲学園は、次代を担う子供たちに、未来の創造者としての精神を持って、「夢」を抱き、その「夢」に向つて果敢に挑戦してくれることを期待しています。

この同窓会会報の発刊を機に、卒業生の皆様の更なる絆が深まり、母校との連携と後輩たちへの新たな夢を賜りますようお願い申し上げます。

青雲の今

学校行事や進学状況など青雲学園の今の様子をお伝えします。

本年度の 主な行事の紹介

始業式・入学式

4月8日(水)の午前中は始業式、そして午後からは入学式がありました。

まず、始業式では新任の5人の先生方(国語・田中哲広先生、生物・山口薫子先生、体育・坂本佳与子先生、書道・平野愛季先生、事務・中尾由美子先生、寮監・小川潔先生)の紹介がありました。次に表彰式があり、高校1年の田中克大君から日本ジュニア数学オリンピック 地区優秀賞の受賞報告がありました。また、「第2回実用英語検定」にて中学校が優良団体賞、高校が優秀団体賞を受賞しました。

午後からの入学式では新入生たちと多くの保護者の方々がお集まりになりました。校長式辞ではこれからの学園生活が青春時代であ

ることを述べられ、自分の能力を伸ばす有意義な学園生活を送って欲しいとおっしゃいました。また、理事長告辞ではこれからの学園生活について、「自分の将来の目標を立てて努力すること」「自分の考えをもつこと」「人を思いやる気持ちをもつこと」を目標にして、質の高い仲間との交流、友情を深めて欲しいとおっしゃいました。

長崎県高等学校 百人一首かるた競技大会

4月25、26日、長崎北高等学校で開催された平成21年度長崎県高等学校百人一首かるた競技選手権大会において、本校2年の松尾徳久君、1年の大久拓海君が3位、2年の麻生拓哉君が4位に入賞しました。

2009年度 第35回体育大会

本日は「第35回体育大会」が開催されました。紅白の組に別れた

生徒たちはチームの勝利を目指して、一生懸命に競技を行い、生き生きとした演技を披露しました。天候にも恵まれた本大会では多くの保護者の方々も応援にいらつしやり、例年ない盛り上がりを見せました。

西彼杵郡中総体開催

5月30日(土)、31日(日)は晴天の中、西彼地区の中総体が行われました。青雲学園からも運動部の多くの生徒が参加し、奮戦しました。



**高校将棋部 11連覇達成
中学将棋部 団体戦優勝！**

5月23、24日に行われた長崎県高等学校総合文化祭将棋選手権団体戦において、青雲は11年連続優勝を達成しました（前身の大会を含めます）。

5月24日に行われた長崎県中学校将棋団体戦において、青雲が優勝しました。中学の団体戦が実施されたのは、長崎県では初めてのことです。大会には青雲、長崎東、平戸の3校が参加、総当たりで行われました。



谷口善政君(高1) 高総体陸上
110Mハードルで**優勝！**



平成21年度高総体が先週末に行われました。5日の総合開会式では本校の生徒たちが代表して国旗や県旗を掲げ入場行進をしました。6日・7日は試合が行われ、日頃の練習成果を発揮し活躍しました。特に、陸上競技では谷口善政君が110mハードルで優勝、空手道男子個人組み手では久木野理士君が九州大会出場など優秀な成績を修めました。



温習室（集団学習室）

SEIUN  **スナップ**



放課後の教室
中一の教室。
今年から女子生徒がいます。
女性の先生も6人います。



和敬寮（個室）



南側校舎を望山寮B棟側から

平成21年度 大学合格状況

国公立大学

大学	文系	理系 (除医)	医学	合計
筑波大学		1	1	2
東京大学	17	4	1	22
一橋大学	3			3
京都大学	1	2		3
大阪大学	1	1		2
広島大学		2	1	3
九州大学	11	24	4	39
長崎大学	2	9	18	29
熊本大学	1	3	2	6
鹿児島大学		1	6	7
その他	15	23	16	54
合計	51	70	49	170

私立大学

大学	文系	理系 (除医)	医学	合計
早稲田大学	29	9		38
慶応義塾大学	13	5	1	19
中央大学	23	1		24
東京理科大学	3	9		12
明治大学	15	1		16
同志社大学	6	6		12
立命館大学	17	12		29
久留米大学			9	9
産業医科大学			6	6
福岡大学	5	10	8	23
その他	47	35	31	113
合計	158	88	55	301

各種大学校

大学	文系	理系 (除医)	医学	合計
防衛医科大学校			2	2
防衛大学校	3	3		6
合計	3	3	2	8

大学	文系	理系 (除医)	医学	合計
国公立大総数	51	70	49	170
各種大総数	3	3	2	8
私立大総数	158	88	55	301
合計	212	161	106	479

女子の主な大学の合格状況

大学	計	内医	内歯	内薬
東京大	2			
東京外国語大	1			
お茶の水女子大	1			
横浜国立大	1			
信州大	1			
神戸大	1			
奈良女子大	1			
広島大	2	1	1	
山口大	1	1		
九州大	7	2		1
長崎大	10	3	1	5
熊本大	2			1

大学	計	内医	内歯	内薬
大分大	1	1		
宮崎大	1	1		
鹿児島大	1	1		
九州歯科大	1		1	
防衛医科大	1	1		
青山学院大	2			
慶応義塾大	3			2
東京女子医科大	1	1		
東京理科大	2			2
日本大	2	2		
早稲田大	2			
福岡大	7	3		2

国公立大学医学部

大学	人数	大学	人数
筑波大	1	佐賀大	2
千葉大	1	長崎大	18
東京大	1	熊本大	2
鳥取大	1	大分大	5
広島大	1	宮崎大	3
山口大	3	鹿児島大	6
九州大	4	琉球大	1
防衛医科大学校を含む		合計	49

内数の医学部は医学部医学科

母校で、今度はお子様の夢を 実現させてみませんか！

平成22年度 青雲中学校・高等学校 入学試験

中学校入試 平成22年 1月11日(月)
男子約120名、女子約30名

高校入試 平成22年 1月17日(日)
男子約50名、女子約50名



本校同窓生のご息子が数十名本校に在籍されていて、親子で本校を卒業された方も多数いらっしゃいます。お子様のご入学を心よりお待ちしております。詳しいことは青雲学園広報部までお問い合わせいただくか、ホームページをご覧ください。

TEL 095 (882) 0678

E-mail koho@seiun-jh.ed.jp

ホームページ <http://www.seiun-jh.ed.jp>

同窓会員の今

会員の皆様からよせられたお便りを紹介します。

1回生の連中は…

1回生 鶴殿 雅彦

同窓会会報第1号が発行されるこの記念の年、我々も記念すべき年を迎えている。生まれて半世紀なんと50歳となる年なのである。同級生の仲間たちと知り合って、35年が経つのである。

我々1回生は109名。同窓会総会の度に30名近い人数が集まり旧交を温めている。しかし、我々1回生は、青雲高校を卒業して一度も同窓会を開いていないのである。半世紀スペシャルとして大々



的に同窓会を開こうと、地元仲間
で思案中である。1回生の連中よ
ご期待あれ！

なお、1回生仲間の最近のト
ピックスは、なんとといっても、あ
の東敬史君がシャンソンの作曲家
として、日本・フランスで活躍し
ているということであろう。先日、
長崎でコンサートを開き、故郷に
錦を飾ったのである。写真は、
2009年5月28日、コンサート
会場の旧香港上海銀行長崎支店前
で、右より永江君・主役の東君・
筆者である。50年という歳月は、
人を変える…

山崎聡太郎君を偲んで

10回生 原 拓也

昨年同期の山崎聡太郎君が他界
しました。その数か月前、これが
最後になるかもしれない大勢の
仲間が集まりました。その会には
微塵の湿っぽさもなく、彼を筆頭



に笑い渦巻く楽しいひとときでし
た。限られた命を大事に過ごした
い人の為の、素敵な時間の使い方
だったと思います。そんな贈り物
ができる同窓生ってスゴイな。

昨年の夏は皆で山崎君の精霊船
を曳きました。長崎らしく、賑や
かに爆竹の音を鳴らして。そこ
は、彼に生前抱っこしてもらった
我が息子も参加しました。

それぞれが仕事や家庭を持ち、
人生も半ばまでくると、同窓生と
のつながりは、いつしか揺るぎな
い安心感を与えてくれるようにな
りました。「同窓生」という不動
のアンカーは、私たちの心を強く
つなぎとめる力があるのだと思
います。

人生の航路をそれぞ
れのスピードで進むみ
なさん、その前後左右
には、いざとなったら
手を差し伸べる僚船た
ちがいることを思い出
しつつ、存分にご活躍
ください。



青雲4回生同窓会

4回生 俣野 正俊

去る平成21年5月2日(土)、

長崎県大村市某ホテルのレストランにて「青雲4回生同窓会」恩師に感謝」と題し同窓会を行いました。先生4名、同窓生40名の参加をいただき、吉村君の司会進行、松井先生、吉野先生、中村先生のご挨拶のあと、宮崎先生の乾杯の音頭で会は始まりました。テーブルのあちらこちらに大小の島ができはじめ、学生時代の話で盛り上がり、現況を確認し合ったり、先生を囲んで懐かしんだり、和氣藹々とした集まりではなかったかと思えます。

このように多くの同窓生が集まることができたのもご協力いただいた方々のお蔭であり感謝申し上げます。それとメールリングリストの活用も大きな要因であったと思



われ、今では80名近くの同窓生が参加していただいております。情報交換の場となっております。

再来年は卒業30年ということで、今回よりも多くの同窓生を集めることを計画中です。まだまだメールリングリストに参加されていない4回生の方はご連絡してください。(都合上メールアドレスを記載できませんので親しい同窓生から連絡先をお聞きください。)

アナウンサーになって

28回生 小西 沙季

青雲高校を卒業し4年がたちました。この春、早稲田大学を卒業してNCC長崎文化放送に入社しました。

アナウンサーをめざしたきっかけは高校3年のアテネオリンピックのときです。NHKの刈屋富士雄アナウンサーの男子体操の実況に感動し、アナウンサーになりたいと思ったことを今でも鮮明に覚えています。もともとスポーツが大好きで青雲時代は新体操部に所属し大学でも、スポーツに学生生活を注ぎたいという想いからサークルではなく部活である体育会相撲部にマネージャーとして入部しました。

ちゃんこを作ったり、まわしの洗濯をしたりふだんなかなかできない経験をたくさんしました。また、他の部の友達もたくさんでき、スポーツ漬けの学生時代でした。これからアナウンサーとして報道に強くなりたいのはもちろんのこと、スポーツ、特に高校野球の実況ができ感動を伝えることができるアナウンサーになりたいです。





青雲の「伝統」とは何か

青雲学園学監 **藤田 直志**

開校の翌年の入学式で、育成会長の村木信一郎さんが保護者として述べられた言葉に、私は胸が熱くなりました。「私たち二年生の保護者は、昨年四月まだ社会的評価も何も無いこの学校に子供達を入学させました。このことは、大切な宝である子供達の教育についての大きなかけでありました。しかし、私たちはこの学園を信じていました。一年たちました今、学力は勿論、人間形成では子供の生活態度に著しい変化が目に見えてきました。一年たった今は、もうあの子がこんなにと眼を見張るようになったのであります。皆さんもきっと入学して十日も経たない内にこのことをお感じになることと存じます。」

この保護者の信頼に依って学園が努力したのは何であったか。それは理事長速見雄吉先生が、古川憲介校長先生と共に、力説された師弟同行の教育でありました。それから時を経て、八回生の寮生だった田川晋作君から、往時を偲んで、ある原稿を頂きました。田川君は「特に、寮では鍛えられました」といい、次のように記しました。「うさぎ跳びや一時間走りなど今ではいい思い出です。寮生活には、娯楽もプライベートも全くないのに、皆はとても遅しく元気ハツラツ生き生きと楽しく過ごしていました。今思う

に、これぞ質実剛健です。このようにして青雲に学んだことは非常に大きく、私の人生の基礎となりました。」在学中には、きついこともあり、不平不満もきつとあったことでしょう。しかし、今、振り返った時に、鍛えられてよかった、と言ってくれる心に感動しました。

そして、平成七年、初めて女子が高校に入学しました。その一人、長谷川葵さんから、昨秋、ある原稿を頂きました。その文章の一部です。「紺の学ランに混じって、ギンガムチェックの制服の女子二十七名。入学して初めにした事は、体育大会の行進の練習…。全てが男子と変わらない扱いでした。…今でも私の中に青雲で培った体力と気合いが宿っています。青雲での多くの先生方・先輩・友人との出会いに感謝しています。」

男子校の伝統として受け継いできた徹底した体力づくりを女子も受け入れている、その力強さに私は感動しました。青雲の教育とは何か。それは、頭を鍛えるとともに、心を鍛え、体を鍛えることをバランス良く行う、“鍛える教育”です。それが青雲の伝統というものだと思います。35年の歩みで青雲が確立したその伝統に、私は、矜持を抱きます。

会員の皆さんへ

平成22年1月
新しい会員名簿を
発行します

この会報が送付されている同窓生には、既に「平成22年版同窓会会員名簿作成についてのお知らせ」の往復はがきが届いているかと思いますが、名簿の発行を準備中です。名簿の作成はほぼ5年毎に行われ今回で通算5号目となります。

平成22年版名簿は特に個人情報保護法が施行された事を重視して作成する事になりました。その為理事会で名簿作成委託先の(株)サラトと何度も協議を重ね情報の流出等が無いよう(株)サラトと同窓会事務局で厳重に管理する事となっています。

今回から予約限定価格を設定しました。後から購入する場合は1,000円程高くなりますので、まだ予約されていないようでしたら早めに予約をお願い致します。名簿サイズも記載人数が7,400名と増えた事か

校長先生の胴上げ

初代同窓会会長（第1回卒業生） **坂口 点**

青雲学園初代校長の古川憲介先生はやかましい先生でした。

サッカーで鍛えた細身の体と大声。眼鏡の奥の眼光は鋭く、いつも苦虫をかみつぶしたような顔で冗談などは全く通じない雰囲気。柔らかな印象の速見雄吉初代理事長とは対照的に、古川先生は固くまさに剛でした。暑いグラウンドで行われていた朝礼での挨拶は長く、唾を飛ばしながら同じ話の繰り返し。いつもコミック雑誌が散乱している寮生活を注意されるのですが、先生は「マンガボン」と発音なされるため、私は心の中で（成人雑誌の）漫画ボンに置き換えて突っ込んでいました。鉄拳制裁もしばしばで、私も寮を抜け出して久留里海岸で無断で泳いでかえってきた際に、古川先生の金色の時計バンドが壊れるほどの平手打ちを受けたことを思い出します。

望山寮の初代寮監長岡部先生が赴任される前は、古川先生も寮に寝泊まりされ、独特の『起床！』の声は今でも鮮明に耳に残っています。今でこそ懐かしい記憶ですが、当時は校長先生の起床放送での寝覚めはあまりいいものではなく、暗い気持ちで一日をスタートしていました。1日中青雲学園の中で私たちと寝食を共にし、あっちで怒り、こっちで怒鳴り。当時の私たちには本当に煙たい存在でした。



しかし今思えば、当時の校長先生の気持ちはよくわかります。県内外から大きな注目を集めた青雲学園のスタート、成功を願う人よりやっかみ半分で見ている人の方が多かったと記憶しています。その中でなんとかいい船出をさせようと必死だったのでしょう。一人憎まれ役になり、還暦過ぎとは思えないエネルギーで青雲学園を引っ張っていかれました。古川先生の頑張りがなければ、現在の青雲学園はありえなかったでしょう。

昭和53年2月8日、第1回青雲高等学校卒業式が挙行されました。テレビなどメディアが勢揃いする中、大過なく終了し、誰が言い出すともなく玄関前での胴上げが始まりました。2階の窓からその様子を見られていた先生が、「校長」コールに応えて嬉しそうに降りてこられたことを思い出します。写真から頭が切れてしまうほど高い胴上げでした。

この後、古川先生が少し身近に感じられました。

らB5判からA4判に変更しております。

名簿作成・整備は同窓会活動の礎となるもので、今回の会報や名簿等の同窓会からのお知らせは個人情報保護の観点から、名簿記載の住所にしか送付出来ません。お知り合いの同窓生で会報が送られていない方が居られましたら、是非会報が出来た事をお伝え頂き青雲高等学校同窓会事務局までご連絡頂ければ幸いです。名簿の整備は随時同窓会事務局で受け付けておりますので、今回の名簿に間に合わなくても会報は送付出来るようになります。会員各位には、ご協力の程よろしく御願致します。

連絡先

郵便送り先

〒851 2197

長崎県西彼杵郡時津町左底245 2
青雲高等学校 同窓会事務局 中尾まで

TEL : 095 801 5161

E-mail : dosokai@seiun-jh.ed.jp

関東支部

関東青雲会事務局

三浦 剛 (9回生)

関東は同窓生も多く、働き盛りの40代(一回生は50代突入!)から卒業後数年の学生たちまで、「政治・宗教・マルチ・セクハラは禁止、みんなで楽しくわいわいやる」というシンプルな会則の下、楽しく盛り上がっています。

イベントとしては毎年恒例となった

・長崎びいどろ会主催「ハタ揚げ大会」への参加(毎年GWに多摩川で開催)

・関東青雲会大懇親会(毎年11月に都内で開催。150名程度が参加)

を行っている他、有志で行うゴルフや飲み会などで世代を超えた同窓生相互の懇親を深めています。



ajio-seiun@freeml.com

大都会「東京」で頑張る同窓生には、会社員や官庁勤めの他、医師や起業家も多く、業種や趣味で同窓生の輪が広がっているケースも多々見受けられます。

7年ほど前から始めた関東青雲会ですが、約20名の事務局にも活発な若い世代が増え年々活性化し、今後どういう姿に発展するかとても楽しみです。優しく元気な女子の先輩もたくさんいます。怖いオジサンたちの会じゃないので若い人たちもどんどん参加し、一緒に盛り上がりましょう!

事務局アドレス

久留米大学医学部支部

独立行政法人国立病院機構 九州医療センター心臓外科医長
久留米大学青雲会世話人副代表

田山 栄基

(7回生)

久留米大学医学部青雲会は1982年に宿輪三郎先生(青雲1回生)の有志への呼びかけによって始まりました。そして1984年頃より青雲恩師をお二人ずつ久留米にお呼びするというスタイルが定着しました。今までに、のべ60人近くの先生にお越しいただきま

した。この場をお借りして青雲学園に深く感謝申し上げます。

現在、名簿上では医学生、医師合わせて258人の大所帯となりました。最近では年1回の親睦会を医学生を中心に(50〜60名程度の



規模)、5年毎には医師も多数参加する形(100名程度)で行っています。学年や時代の壁を越え同じ釜の飯を食った者同士が集うことで、医師同士では診療連携に、医師学生間では勉強指導や進路相談などに役立っています。

久留米大病院は九州最古参の私立医大で、九州北部での高度医

療中枢の一端を担い、その臨床力は全国的にも高く評価されています。その中で、青雲は多くの准教授、講師を輩出し、多くの基礎・臨床講座で活躍しています。最後になりましたが、今後青雲学園ならびに同窓会がますます発展していかれることを心よりお祈り申し上げます。



佐世保支部

支部長 浦山 信一

(2回生)

佐世保支部は、総数百余名(分かってるだけで)が在籍しております。

会員の職業も幅広いのですが、同時にさまざまな組織、団体で活躍されておりまして、狭い土地柄のせいとか何かの会合に顔を出せば、必ずといっていいほど同窓生と一緒にになり、すぐに打ち解けられます。

私も卒業して30年を数えるようになりましてので、青雲同窓生が

現在あらゆる社会で活躍し、根ざしていることを頼もしく感じ、この佐世保で経済活動することに安心もしているところです。

とくに、佐世保支部はもともと集まりのよいところでありまして、毎年恒例の「新年会&厄入り」(於レオプラザ)に今年は、安達会長をはじめとする来賓の方々も参加いただき40名以上の会となりました。お決まりの「珍芸?」も飛び出し、大盛況でした。

また、誰かが商売を始めた、誰かがイベントをやっているなどというときには、先輩後輩からメールがどんどん回ってきてまして、逆にお世話をいただいております。こういうことも、先輩方が青雲

同窓会佐世保支部の基盤を作っていたいただいたお陰でありまして、今後の佐世保支部をますます楽しい会に盛り上げていきたいと思っております。



青雲医学同窓会

宿輪 三郎

(1回生)

第2代青雲医学同窓会会長
宮崎病院院長(元長崎大学病院光学医療診療部准教授)

1984年(25年前)に青雲卒第1回生の医師が誕生いたしました。当時は、当然ながら先輩は皆無であり入局時、非常にさびしい思いをしたこと覚えております。

この頃は医学同窓会を作る必要性もありませんでしたし、むしろ同窓会活動を積極的に行うことは不利益を被る可能性すらあったと思います。その後、徐々に同窓生が長崎大病院の教官(准教授、講師、助教)や基幹病院の要職を占めるようになり医学同窓会を作ろうとする気運が盛り上がってきました。そこで第1回生の坂井裕之

先生、橋口隆先生、内川徹也先生に呼びかけ青雲卒業医師の親睦と病診連携を目的とした青雲医学同窓会の立ち上げを決め、2004年2月23日に坂井先生を代表として第1回総会を盛会に開くことができました。坂井先生の県外転出により2006年より私が会長を引き継いでおります。現在は医師の親睦団体でありまして、今後は同窓医師と医学部学生の懇親を深める会、県外の医学同窓会と交流を深める会、母校に貢献できる会にできるように努めてまいりたいと思っております。

平成20・21年度同窓会役員名簿

会長	安達 健蔵 (3回生)	芦澤 和人 (4回生)	梁瀬 正輝 (11回生)
副会長	藤田 茂 (1回生)	渡邊 尚 (4回生)	浅田 真五 (12回生)
副会長	浦山 信一 (2回生)	未永 悦郎 (5回生)	小林 秀顕 (15回生)
副会長	田山 栄基 (7回生)	三澤 良介 (5回生)	安田 直史 (15回生)
会計総務		鶴田 修 (6回生)	古川 健 (16回生)
副会長	横尾 寛 (2回生)	南野 淳 (7回生)	木下健太郎 (17回生)
事務局長	児島 雅彦 (7回生)	三浦 剛 (9回生)	山口 晶 (18回生)
事務局次長	宮地 智宏 (9回生)	矢野 公士 (9回生)	塚島 宏明 (21回生)
	森永 善友 (4回生)	谷脇 伸彦 (10回生)	名簿担当
	村木 威夫 (7回生)	橋本 清 (11回生)	副会長
支部担当		鈴木 崇彦 (15回生)	渡邊 康一 (4回生)
副会長	出口 雅浩 (3回生)	総会担当	
	鶴田 純二 (1回生)	副会長	田中 敬一 (3回生)
	鬼塚 康徳 (2回生)	虎谷 浩二 (3回生)	石橋 大作 (5回生)
	前田 隆浩 (2回生)	伊川 英利 (2回生)	三澤 良介 (5回生)
	尾崎 幸生 (3回生)	吉村 正寿 (4回生)	大川 浩司 (6回生)
	白髭 豊 (3回生)	川添 研太 (5回生)	立山 義英 (6回生)
	西沢 浩幸 (3回生)	力武 隆一 (6回生)	幹 事
	佛坂 育祉 (3回生)	井手佳位輔 (8回生)	監事 (監査)
	宮崎 泰司 (3回生)	木村功太郎 (8回生)	岩永 城児 (13回生)
		藤岡 良規 (10回生)	監事 (監査)
			一ノ瀬博人 (15回生)

収 支 決 算 書

自 平成18年4月1日 至 平成20年3月31日

(単位：円)

収 入 の 部				
科 目	決 算	予 算	差 額	摘 要
入 会 金 収 入	(2,330,000)	(2,500,000)	(170,000)	
平成19年卒業 30回生	1,135,000	1,250,000	115,000	@5,000円×227名
平成20年卒業 31回生	1,195,000	1,250,000	55,000	@5,000円×239名
事 業 収 入	(1,226,000)	(1,400,000)	(174,000)	
平成18年 総 会	(1,226,000)	(1,400,000)	(174,000)	
会 費 収 入	1,226,000	1,400,000	174,000	
協 賛 金 収 入	0	0	0	
寄 付 金 収 入	0	0	0	
名 簿 売 却 収 入	(0)	(0)	(0)	
名 簿 売 却 収 入	0	0	0	
雑 収 入	(6,258)	(3,000)	(3,258)	
受 取 利 息	6,258	3,000	3,258	銀行預金利息
収入の部合計	3,562,258	3,903,000	340,742	
支 出 の 部				
科 目	決 算	予 算	差 額	摘 要
事 業 費 支 出	(2,297,200)	(2,600,000)	(302,800)	
平成18年 総 会	(1,873,953)	(2,070,000)	(196,047)	
飲 食 ・ 会 場 費 用	1,366,129	1,500,000	133,871	ホテルニュー長崎
広 報 関 係 費 用	125,370	100,000	25,370	ポスター作成費用等
ア トラ ク シ ョ ン 関 係 費 用	77,670	100,000	22,330	
通 信 費 用	265,094	320,000	54,906	案内八ガキ郵送費等
雑 費	39,690	50,000	10,310	教職員お土産費
平成18年 総 会	(0)	(30,000)	(30,000)	
事 務 諸 経 費	0	30,000	30,000	宛名ラベル等
記 念 品 贈 呈 費 用	(423,247)	(500,000)	(76,753)	
19年度入会 30回生	206,193	250,000	43,807	
20年度入会 31回生	217,054	250,000	32,946	
事 務 費 支 出	(716,706)	(600,000)	(116,706)	
理 事 会 費	29,600	80,000	50,400	8回分会場費
慶 弔 費	271,375	300,000	28,625	香典等
通 信 費	27,006	50,000	22,994	サラト宛名
交 通 費	284,000	60,000	224,000	理事者
広 告 伝 達 費	0	0	0	
事 務 用 品 費	0	10,000	10,000	
事 務 諸 経 費	104,725	100,000	4,725	振込手数料他
支出の部合計	3,013,906	3,200,000	186,094	
当 期 剰 余 金	548,352	703,000	154,648	
前 期 繰 越 剰 余 金	9,507,566	9,507,566	0	
次 期 繰 越 剰 余 金	10,055,918	10,210,566	154,648	正味財産

上記役員名簿と収支決算書は2008年8月の同窓会総会にて承認されております。



2010年 青雲高等学校 同窓会総会・懇親会

2010年 7月17日(土)

於 稲佐山観光ホテル
午後6時～午後9時



総会委員長 虎谷浩二

* 詳細は青雲高校ホームページに掲載いたします。

翌日18日(日)には、青雲同窓会主催ゴルフコンペも予定いたしております。

詳細は青雲高校同窓会ホームページに掲載いたします。

総会委員長を拝命しております第3回卒業の虎谷です。日頃より皆様には同窓会活動への御理解、御協力を賜り、心より御礼申し上げます。

この度、同窓会会報が発行されることになり、皆様に同窓会総会の御案内をいたします。

来年7月17日(土)長崎市曙町の稲佐山観光ホテルにおきまして、同窓会総会・懇親会を開催いたします。前回と同じ会場ですが、開催時期を今回は7月の連休にいたしました。(いろいろ説明すると長～くなります)

前回の総会・懇親会もたいへん盛会で、多くの同窓生と会うことができました。日頃なかなか会えない懐かしい面々と語らう時間が持てるのは、たいへん楽しいものです。また、恩師の先生方にも御出席をいただき、さらに深い時間を持つことができました。

総会・懇親会にたくさんの世代の同窓生が一堂に集い、各分野での活躍を聞くにつれ、自身へのエネルギーへと変わるのを覚えました。今回は、そんな同窓生への講演をお願いし、日頃聞けない同窓生の活躍ぶりを語ってもらう企画や、ゴルフコンペなど多数の企画も考えております。御期待ください。

そして、一人でも多くの仲間の参加を待っています。

来年7月17日、稲佐山観光ホテルで会いましょう。

P.S 同窓会総会の実行委員を大募集中です。ちょっとお手伝い程度でも構いません。同窓会事務局へメールしていただければ結構です。お待ちしております。(mail: dosokai@seiun-jh.ed.jp)



賛歌

作詞 中村 元三
作曲 松尾 政彦

校歌

作詞 豊永 徳
作曲 安永武一郎

- 一. 朝日に匂う 峰の雲
夕風かおる 琴の湖(このうみ)
正大の気に 包まれて
不朽の倫(みち)を尊ねんと
集う若人
青雲の学びの園(にわ)は
光あり
- 二. 高く掲(かか)ぐる わが理想
實(まこと)を 貫(つらぬ)く 学(まな)ぶの業(わざ)
人類(ひと)の願(ねが)いに 応(こた)えては
新(あらた)き世(よ)を担(た)ね にな(な) りんと
集う若人
青雲の学びの園は
誇(こほ)りあり
- 三. 輝(かが)むひとみ 振(ふる)る腕(うで)
胸(むね)か 激(おど)る雄(おとこ)叫(こゑ)び 激(たぎ)る胸(むね)
不(たが)へぬ 不屈(ふく)の 精神(こころ)を ちて
わが前(まへ)途(みち)を 拓(ひら)き 拓(ひら)かんと
集う若人
青雲の学びの園は
力(ちから)あり

- 一. 岩屋の峰に青雲の
真理(まこと)究(たづ)むる意(い)気(け)にもえ
研(けん)鑽(さん)練(れん)磨(ま)りなく
智(ち)にいそしまん 智(ち)にいそしまん われら若人
- 二. 時津の浦に青雲の
理想(りやう)もとめて集(あ)いはる
師(し)弟(てい)同行(どうぎやう)美しく
心(こころ)みがかん 心(こころ)みがかん われら若人
- 三. 苦難(くなん)の道(みち)に青雲の
歴史(れきし)を創(つく)るほりもて
堅(かた)忍(しの)ぶ持(も)たたくましく
身(み)体(てい)きたえん 身(み)体(てい)きたえん われら若人

- 1 本館
- 2 北校舎(中1、中2と特別教室)
- 3 南校舎(中3、高1・2・3と大教室)
- 4 体育館
- 5 望山寮管理棟
- 6 〃 食堂
- 7 〃 A棟
- 8 〃 B棟
- 9 〃 C棟
- 10 記念館
- 11 第1グラウンド
- 12 第2 〃
- 13 和敬寮
- 14 温習室
- 15 寮監長宿舍
- A 一三三荘(女子指定下宿)
- B 東望寮(女子指定下宿)
- C 淳風寮(女子指定下宿)
- D 清光寮(女子指定下宿)
- E 国道206号線左底交差点



編集後記

同窓会全体の活動を伝えたいという意向から、会計総務・支部・総会の各委員会からも数人ずつ参加していただき、名簿委員会を中心に会報作成を始めました。会報委員や原稿依頼者の皆さんの驚くほど積極的な協力のおかげで、絶対無理だと思っていた作成スケジュールが滞りなく進行していき、今回無事発行出来ました。

同窓会会報は年1回の発行を予定しており、今後は同窓会員の今や支部だよりを充実させて皆さんへお届けしたいと考えています。

紙面の充実には、同窓生の皆さんのご協力が絶対に必要ですので、なにとぞよろしくお願いたします。会報は同窓会名簿に記載された住所にしか発送されません。

転居される方や、現在名簿上の行方不明者になつていらっしゃる方は、青雲学園事務局同窓会担当窓口まで住所変更の連絡をお願いいたします。

最後になりましたが、今回の同窓会会報発行にあたってご協力を戴いた、青雲学園、(株)昭和堂、(株)サラト及び同窓生の皆さんへ心から感謝を申し上げます。(名簿・会報委員長 渡邊康一)

次号の発行は平成22年5月を予定しています。同窓生皆さまのご寄稿をお待ちしております。同窓会事務局中尾までお送りください。

